

# 平成 30 年度自己評価結果

習志野みのり幼稚園

当園は、昭和 46 年に設立され、およそ半世紀にわたり今日まで、知・徳・体の調和のとれた心豊かな子どもを育てたいという理念のもと、幼児教育を実践してまいりました。時代の変遷とともに家族の在り方も変わり、幼稚園の役割、幼児教育に求められるものも変化しています。当園では、いち早く時代の変化に対応し、さまざまな取り組みをしてまいりました。

平成 30 年度の活動を振り返り、幼稚園学校評価として自己評価を実施しました。教職員一人一人が自らの教育活動や状況を客観的に評価することで、教育者としてさらに成長することができればと思っております。この評価結果を深く受け止め、更なる教育活動の充実、教育環境の整備、教職員の資質向上に努めてまいります。

## 1. 本園の教育目標

- ・ 安全で幸福な生活を送るための基本的習慣、心身の発達、豊かな感性、自主性、社会性を、子ども自身の主体性のある遊び、クラス活動、オープン保育、音楽、体育、国語教育、造形活動等を通して育む。
- ・ 一人一人の発達の状況個性を踏まえ、子ども同士の関わり合いを尊重し子どもに寄り添った保育をする。
- ・ 将来、社会の中で喜びを持ってその発展に寄与することができる人間性を育む。

### (具体的教育目標)

- ・ 運動感覚を養い健康な体作りのサポートをする。
- ・ 安定した情緒の下で自己を発揮できるように配慮し、子どもの主体的な活動を促し、自己肯定感を育む。
- ・ 子ども同士の遊びの中の関りを重視し社会性を養う。
- ・ 日常会話、読み聞かせ等を重視して表現力、豊かな感性を養う。
- ・ 子どもの興味のある事象を尊重し自主性、意欲、問題解決能力の育成を目指す。

## 2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

評価項目に従って自己点検、自己評価を実施することによって全ての職員が自園を見る目を養い、教育内容、教育環境の設定の改善に主体的に取り組む。

### 3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況	評価
幼稚園教育要領、子どもの実態をふまえた教育課程の作成、保育をする。	子どもの実態をふまえることは概ねできているが、幼稚園教育要領への理解はさらに深めていく必要がある。	B
子どもの実態を的確につかみ具体的な日案作成をする。	日案作成において子どもたちの個性や集中力を考慮することは概ねできている。また直近の行事や、隣の学級の動き等も視野に入れて作成しているケースもある。	B
正しい姿勢、バランス感覚が身につくような声かけ、取り組みを行う。	朝の集まりや給食時における姿勢に対する声かけや、幼児体育、サッカー、剣道、新体操、鼓笛などの指導を通じて正しい姿勢やバランス感覚を養っている。	A
規則正しい生活習慣の定着に向けての指導を行う。	手洗い・うがい・排泄などの生活習慣が身につくように指導している。早寝早起きなど家庭の協力が必要な習慣に関しては、保護者に状況確認し改善を促しており、規則正しい生活習慣の大切さを理解できるよう指導を工夫している。	B
安全で興味の引く保育環境を用意する。	難易度の高いことにも子どもたちが興味を持って取り組めるように工夫している。また、オープン教育を取り入れるなど、子どもの好奇心を尊重し、学ぶことの楽しさを実感できるよう保育を行っている。また安全の為に補修を要することが増えており、随時更新をしている。	B
子どもの良さを認めて評価する。	子どものよいところ、頑張ったところ、できるようになったことは評価し、褒めるように心がけている。子どものやる気につながるような褒め方・評価の仕方ができるように工夫したい。	B
日常会話、季節の歌、読み聞かせ、制作を通し表現力を養う。	豊かな表現力を養えるよう、季節感を取り入れながら、子どもの成長度合いに合わせ、さまざまな取り組みを行っている。同学年の指導内容は統一しているが、自由時間の使い方は、子どもの関心分野や教諭の得意分野によって異なり、それが各クラスの個性となっている。今後は、教諭の各分野の表現力の更なる向上に努めたい。	B
遊びを通して工夫したり協力したりする姿を見守り、援助する。	学年によって子どもへの関わり方は異なるが、基本的には子どもの想像力、自主性、協調性を尊重し、見守っている。保育者は、トラブルを未然に防げるように必要に応じて援助や手助けをしている。	B
各クラスで起きた事案を園全体で共通理解しそれぞれの保育に役立てる。	大きな怪我や伝染病等の重要案件については、ほぼ園全体で共通理解できている。それ以外については、担当教諭レベル、学年レベルで留まっている。どういった事案を全体で共通理解するのかしないのかを設定し周知する必要がある。	B
学期ごとに各クラスの経営の成果と課題を報告する。	定期的に学年会を開催し、各クラスの経営状況の報告や相談を行い、保育に反映させている。学期ごとに反省点をまとめて園長にレポートしているが自由文形式であるため、定量的な観点には欠ける。	C
各職員が研修会に参加し他の職員へ伝え、その成果を保育に生かす。	研修参加後、報告書を園に提出し、各自保育に活かしてはいるが、他の職員への報告会や情報提供は行っていない。報告会の開催や研修資料の自由閲覧など、情報共有に努めたい。	C
園だより等をとおして幼稚園の情報を発信していく。	毎月、クラス便り・学年便り・行事予定表を発行し、幼稚園の情報を発信している。また、必要に応じてお知らせ(紙、れんらくアプリ)を出して、タイムリーな情報提供を心掛けている。普段見ることのできない子どもの園での表情を動画撮影し、Facebook で発信している。	A

<評価の基準> A:十分に達成されている、B:達成されている、C:取り組まれているが成果が十分でない

#### 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

総合評価：B

各教員が目標・課題を理解し自己評価することにより、取り組むべき課題を自ら認識し、改善していく意識が芽生えた。

#### 5. 学校関係者(保護者)からの評価

保護者からは、行事等での子どもの演技や作品に対する高い評価をいただいた。園近隣の方や園バス停留所近辺の方からは、騒音やバス乗降時のマナーに対する苦情をいただいた。

- ・ おゆうぎ会でのダンスパフォーマンスの質が高さ、構成力に感服した。
- ・ 運動会での鼓笛は素晴らしかった。子どもが一生懸命練習する姿がうれしかった。
- ・ 作品展での子どもたちの作品の質の高さに驚いた。
- ・ バス乗車前、乗車後に子どもが道路付近で遊んでおり、危険を感じた。
- ・ 建物入口付近を塞ぐように立っているため、出入りにくい。
- ・ 鼓笛練習時のアンプの音がうるさい。

#### 6. 今後、取り組むべき課題

初めて自己評価を実施したことにより、全ての職員が自園を見る目を養い、教育内容、教育環境の設定の改善に取り組む礎となった。今後は、個々人の意識レベルの向上だけでなく、園単位(組織)での活動、情報共有の仕組みづくりにも取り組んでいきたい。

また、より安全な保育を実施するための環境設定、各教諭の資質の向上にも努めたい。

##### (具体的目標)

- ・ 安全管理  
毎年、引渡訓練と防災訓練を実施しているが、災害時の各職員の対応訓練、不審者対応訓練が十分ではないので、職員の意識づけ、危機管理マニュアルの作成を行いたい。
- ・ 教諭の資質の向上  
平成 30 年度は、外部研修の参加だけでなく、園内研修として食物アレルギー対応、けいれん・熱中症対応、消防署による救急救命研修等を実施した。今後は、外部研修の幅を広げる、園内研修の内容を更に充実させる、等の検討をしたい。
- ・ 情報の共有化  
クラスで起きた事案、トラブル、怪我や病気等保育に関する情報の共有化、研修資料等保育技術に関する資料の共有化を図る。